

平成26年8月11日

連合市民クラブ

代表 野崎伸也 様

八代市議会連合市民クラブ行政視察復命書

\* 観察期日 平成26年7月23日（水）～25日（金）

\* 観察場所 京丹後市 公共交通再生の取り組みについて  
豊岡市 観光資源を生かしたまちづくりについて  
大阪市 大阪市教育振興基本計画について

参加者 野崎 伸也



大倉 裕一



島田 一巳



## 連合市民クラブ・改革クラブ 会派合同視察復命書

視察日時：平成26年7月23日（水）13:30～16:00

視察場所：京都府京丹後市役所

視察項目：「公共交通再生の取り組みについて」

「日本一の赤字鉄道再生プロジェクトについて」

担当者が同一の為、2項目を一括で説明頂き、その後質疑を行った。

### 京丹後市の概要

	京丹後市	八代市
面積	501.84km <sup>2</sup>	680.56km <sup>2</sup>
人口	5万8,775人	136,886人
財政力指数	0.33	0.46

京都府北部、丹後半島に位置し、東西約35km、南北約30kmの広がりを持っている。リアス式海岸部の良好な湾や入江を通して、古代から大陸・朝鮮半島と活発な交流が行われてきた。市内からは約2,000年前の中国貨幣や日本最古の紀年銘鏡、日本海側最大の前方後円墳などの遺物・遺跡が多く発見されており、独自の経済文化圏を形成した丹後王国の繁栄がうかがわれる。近世には回船業や丹後ちりめんの生産がまちの産業を支え、今日では、新たに機械金属工業・観光産業がまちの発展を担いつつある。京丹後市は、平成16年4月、峰山・大宮・網野・丹後・弥栄・久美浜町が合併し、市制を施行した。

### 調査項目

#### 公共交通再生の取り組みについて

##### 1、導入の経緯

京丹後市は、旧6町による合併で市域500km<sup>2</sup>を超える広範囲な市域となったが、人口の減少と高齢化が進む。そのような中、京丹後市の路線バス網は利用者も少なく、路線バス維持補助金も嵩み深刻な状況であった。

導入に至る背景として、

- ① 地域住民の主な移動手段はマイカーという現状。（世帯当たり2.01台の保有率）
- ② バスの利用数は平成3年をピークに17年では半分に激減。
- ③ 平成13年に料金を5%値下げ。しかし15年の利用者は元通り減少に転じ、安いだけでは利用者増加に繋がらないとの苦い経験。

現状、空気しか運んでいないバス交通。利用者減→利便性低下→更なる利用者減の悪循環。雪だるま式に増える多額の財政支援額。（補助金：平成18年8,739万円→利用者減により平成24年は1億800万円を見込んでいた）このままでは、地域からバス交通が消滅するとともに、市の財政を圧迫するとの危機意識が芽生えていた。

転機は、平成16年の市町村合併で、それぞれの町村にあった路線バスの運賃の統一させていく必要があったこと。併せて行財政改革に着手した際、市長より補助額が特出していたバス事業者への補助金を「どうにかできないか」との掛け声のもと、市役所内にプロジェクトチームを設立し検討を進めた。

## 2、概要及び特色

### 1) 路線バス再生の道を選択

合併当時は国がコミュニティバスを各自治体に進めている最中で、補助金などのメニューも準備され全国的に取り組まれていた。京丹後市も一旦はコミュニティバスを導入するところまでいったが、

#### ① 安全面に優れている

「安かろう悪かろう」にならぬよう、事故が起きてから気づかぬよう、公共交通で最も大切なことは安全輸送の確保であるとした。

#### ② 故郷交通体系の中心である

鉄道とともに路線バスは公共交通体系の機軸であり、疎かにすることは、まちづくりにとつての大きな損失となる。

#### ③ 地域力の発揮に繋がる

みんなで元気な「まち」を作っていく方向性が見えた。路線バスは貴重な地域資源。

との気づき、バスの質と金額差で路線バスに価値があると判断。庁内協議を経て路線バスの再生を選択し、取り組みを進めた。

### 2) 200円運賃の選択

- ・利用者アンケートを実施。300円以下の料金を望む声が6割を占めていた。  
→しかし、300円に設定しても人々の心理に届く施策にならないと判断！！
- ・定額運賃バスの試算

平成17年の財政支出額（補助金）は4,500万円（4路線で赤字）

	乗車人員	財政支出額（補助金）
300円バスでは	1. 00倍	5,900万円
	1. 25倍	5,300万円
	1. 50倍	4,700万円
	2. 00倍	3,600万円
200円バスでは	1. 00倍	6,200万円
	1. 25倍	5,800万円
	1. 50倍	5,300万円
	1. 90倍	4,500万円
	2. 00倍	4,300万円

以上の試算から、200円運賃で乗車人員を2倍にできれば、平成17年と同程度の財政支出額に抑えられると判断。市長からも「負担が続くのであれば良い変化が生まれるように取り組めばいい」との声も後押し。

→目標は車依存社会からバス交通に転換して貰えるようにすること。

→とにかく、便利に変えていくしか生き残れない。

### 3) 公費負担を有効に

700円×2人ではなく、7人×200円の発想であり、多くの市民が乗って喜んでいただけることで「住民福祉」の増進を図ることとした。乗車人員が増えれば、むしろ財政支出を抑えられる。

## ① 運行業者との協働

→地域のバス交通を行政と事業者が共に良くして行く

## ② 主な利便性向上策

### ○定額運賃の導入

※区間運賃最大 1,150 円→上限 200 円、学生定期(3ヶ月)運賃最大 72,620 円→17,780 円

### ○お得な回数券の販売窓口の拡大 (バス車内、市役所窓口等)

### ○パターンダイヤの導入、利用者ニーズに基づくダイヤ改正、鉄道接続強化

### ○バス停留所の増設・改善、病院やショッピングセンター玄関へのバス車両乗り入れ、フリー乗降区間の拡大

### ○バス路線の見直し (既存バス路線の経路変更、延伸)

### ○ノンステップバス・低床車両の導入、車両の小型化

## ③ 周知方法

### ○路線図入りのわかりやすいバス時刻表の発行 (全ての公共交通を網羅)

### ○利用者アンケートの実施、高校生・老人会との対話集会の実施

### ○自治会・学校・団体等への利用呼びかけ

### ○地域参加型の活動 (出発式演出、バス停ベンチ・待合所のボランティア設置)

### ○バス運転手による幼稚園・保育所への出前講座 (バスの乗り方、絵本の読み聞かせ)

## 3、導入の効果と市民の評価

### 1) 乗車人員・運賃収入の推移 (市内8路線)

	乗車人員の推移	運賃収入の推移
平成17年10～平成18年9月 (200円バス開始前)	17万3,939人	4,579万円
平成17年10～平成18年9月	23万3,658人	4,482万円
平成17年10～平成18年9月	30万3,207人	4,911万円
平成17年10～平成18年9月	32万8,486人	5,123万円
平成17年10～平成18年9月	36万5,255人	5,732万円
平成17年10～平成18年9月	36万7,403人	5,590万円
平成17年10～平成18年9月	39万3,109人	5,945万円

乗車人員は2、3倍、運賃収入は1、3倍に

### 2) 満足度調査

◆上限200円バスに乗ったことがある高校生668人が回答 (導入1年後)

ほぼ毎日利用している	124人	以前は全く利用が無かった人	71人
		以前は月に1～3回利用していた人	25人
		以前は週に1～3回利用していた人	28人
週に1～3回利用している	100人	以前は全く利用が無かった人	61人
		以前は月に1～3回利用していた人	39人
月に1～3回利用している	162人	以前は全く利用がなかった人	162人
その他(年数回程度)	282人		

実に294人の高校生の新たな利用が始まり、利用回数も大きく増進した。

◆バスを利用したことがある高校生889人の満足度の向上項目（200円バス導入2年後）

- 1位 運賃が安くなり分かりやすくなった（369人）
- 2位 通学以外でも出かけるようになった（180人）
- 3位 回数券が車内購入できるようになった（178人）
- 4位 マイカー通学からバス通学になり保護者の負担が減った（124人）
- 5位 地域の人の外出が増えたと感じる（80人）
- 6位 地域で誇れるバスがありうれしい（58人）
- 7位 バス通学になり車内で勉強するようになった（47人）
- 8位 高校進学時の高校の選択の幅が広がった（29人）
- 9位 まちづくりの発展の期待が膨らんだ（27人）
- 10位 路線バスが好き（愛着が増した）になった（26人）

3) 運行業者への市の補助金額の推移

	補助金額	200円バスを実施しない場合の見込み 補助金額（H18年想定）
平成17年	8,114万円	
平成18年（実証運行開始）	8,739万円	
平成19年（200円バス導入）	8,758万円	9,300万円（約540万円の抑制）
平成20年	7,902万円	9,800万円
平成21年	7,784万円	1億200万円
平成22年	6,861万円	1億500万円
平成23年	6,843万円	1億700万円
平成24年	6,933万円	1億800万円（約3,800万円の抑制）

## 調査項目

### 日本一の赤字鉄道再生プロジェクトについて

#### 1、導入の経緯

京阪神と京都府北中部及び兵庫県北部地域の5市2町を連結する第三セクターの北近畿タンゴ鉄道（全長 114km）は、沿線地域内の住民、特に高校生や高齢者などの交通弱者の日常生活及び地域の観光や様々な産業の維持発展を支える大動脈として、まちづくりに不可欠な社会資本である。しかしながら、利用者減に伴う収入減や、国鉄転換時からの老朽化した施設や車両の更新が見込まれる中、さらには大阪直通特急列車の運行維持費としての赤字補填額は増加の一途にあった。その赤字額は、8億円を超え、不名誉な日本1の赤字鉄道と揶揄されていた。

しかし、地域鉄道がなくなってしまうと、人口減少の加速を招くことは、これまでの歴史が証明しているとともに、京都大学研究室によれば、鉄道がなくなれば、25 年後には、ただでさえ減少している人口減少に3倍の加速機を付けた結果になるとの研究報告もあった。これは極めて深刻な話であり、危機感を持って取り組む必要があった。

京丹後市では 200 円バスの成功があり、北近畿タンゴ鉄道の対策も、これに学ぼうということで、安い合理化策（利便性低下）に走らずに、住民の福祉を守るんだという使命感と責任感を持って、思い切った取り組みを行うことにした。

#### 2、概要及び特色

##### 1) 上限 200 円レールの基本方針

###### ◆公費負担を有効に

乗車人員が増えれば、むしろ財政支出を抑えられる

単なる赤字補填ではなく、より多くの市民が大幅に負担を少なく、サービスを受益しながら、同時に行政の投入額を大きく損なうことなく北近畿タンゴ鉄道（以下 KTR と表記）の增收も図る。

その他

① KTR の抜本的な利用促進 ② 経済活性化効果

（他地域との交流増に伴う消費拡大、バス等の乗り継ぎ增收等）

③ 健康増進効果（歩行外出） ④ コミュニティの輪の充実

⑤ マイカーの送迎負担軽減 等

〈主な改善項目〉

運行事業者との協働 ⇒ 地域の鉄道交通を行政と事業者が共に良くして行く

（運賃、車両、ダイヤ、広域ネットワーク網、駅、運転、ニーズの把握、積極的な宣伝）

〈工夫した事項〉

○低額運賃の導入

※区間運賃最大 1,530 円 → 上限 200 円、（平成 24 年 10 月から丹後 2 市 2 町で実施）

○専用 200 円レール切符の配布

###### ◆域外対策

① 魅力的な車両運行

誘客を図るための戦略

○JR九州の豪華クルーズ列車「ななつ星」を手掛けた水戸岡鋭治氏デザインの観光列車「あかまつ」「あおまつ」「くろまつ」を発注制作。H25.4.14～あかまつ・あおまつの運行開始。

(隔日運航)

- ・200円レールで地元住民も口コミで人気が上昇！H25.11.1～毎日運航へ
- ・食堂車「くろまつ」が平成26年5月25日運行開始。金・土・日運行中（水・木は貸切が可能）

## ②情報発信の力の活用

○ソーシャルメディアネットワークを構築し、駅の情報・路線図、乗車券・乗り換え案内、沿線おでかけ情報、活動・取組み、鉄道ファンの項目も用意。

○目立ってなんぼ、発信してなんぼ！

- ・吉本興業とのコラボ

吉本興業さんとタッグを組み、24年度沖縄映画祭CMコンペティションにCM作品を応募。日本一赤字鉄道を笑いにしたKTR動画が全国10傑に残り、さらにインターネット投票の決勝大会で第3位の成績を収めた。これが縁で、吉本のなんばNGKにて北近畿タンゴ鉄道を題材にした新喜劇が上演され、毎日放送にてテレビ放映が実現。京阪神地方のおばちゃんまで北近畿タンゴ鉄道と沿線の様々な魅力の認知度が高まった。

- ・地域住民や「鉄ちゃん」とのコラボ

日本一の赤字鉄道をなんとか支援しようと、多くの市民や北近畿タンゴ鉄道ファンの皆さんのが様々な企画を実施。

地元信用金庫が乗車運動を実施。（月に2度乗る）

地元ラジオ番組やケーブルテレビ局は、番組内でKTRをテーマにトークなどを展開。

ピンク色の服を着て100人で列車内を染めようP.J.

（撮り鉄などの皆さんとのコラボで、見て楽しい同鉄道の動画を作成）

市内の各駅に保育園児・高校生・高齢者が集い、花の植栽を一斉に展開。

## ③その他

- |              |                |
|--------------|----------------|
| ・ライブ列車       | ・手作りホームベンチ     |
| ・婚活列車        | ・駅なか高齢者ふれあいサロン |
| ・ファッショントレイン  | ・駅なか水族館        |
| ・おかみさんアテンド列車 | ・アートステーション     |
| ・高校生おもてなし列車  |                |

## 3、導入の効果と市民の評価

平成19年度の利用者は、12年ぶりに対前年度を上回り、平成20年度も景気の悪化が急速に顕在化した2月以降を除いて対前年度に比べ増加、年間利用者は平成17年度以来、念願の200万人を回復した。会社における営業努力ももちろんだが、数を打った弾（施策）が当たって、沿線住民のKTRに対する意識が高まってきていることの現れ。

### 主な質疑・回答

Q：大胆な改革を行ってきておりが、バス会社からの反対はなかったか？

A：当初、運行会社はおどろき、思いつきの企画だろうと言われた。市職員もバスの補助金を出

すのが当たり前と思っていた。バス会社には毎日電話、ストーカーの様に改革案を伝えた。また、補助金の削減やコミュニティバスへの移行などの腹案も話をしながら、交渉を行いなんとか説得することが出来た。

Q：その他、各所への説明や説得もあったと思うが、苦労したことは？

A：運輸局との交渉もあったが、最初は200円バスで失敗したら責任とれるのか？と言われた。

市長の施策であれば、失敗したら選挙に落ちる。4年待てば200円バスの施策も変わるかもしれない納得して貰った。その他、バス会社組合長、理事長も大変だったが、相談から説得までに2年間を要し納得いただいた。

首長や市幹部は流行の「コミュニティバス」「デマンドバス」などの言葉に弱くすぐに飛びつく傾向がある。また、先生（講師）やコンサルタントを入れて事業を進めようとするが、PJにかかわった人間、自分たちが地域に詳しいとの自負があったので、全て自分たちでやり遂げた。

Q：説得が上手く行った要素や原因は何か。秘訣は？

A：バス会社は一社のみだったことも要因。また、事ある毎にミニケーションで膝を付け合せて交流した結果と思う。（職員倫理規定に抵触するかもしれないが…）また、200円バスでは収支は一時的に下がるが、バスと鉄道（KTR）がセットになれば必ず観光利用者が増加すると説得し理解して貰った。

Q：200円で成功するとの確信はあったのか？

A：正直、無かった。しかし、どうせ同じ補助金を出すのであれば、住民にいかに満足して貰い、納得して貰える出し方にしたいとの思いだった。実は、市長は300円で、私は100円でほんとはやりたいとの検討もした。

Q：府内での反発や苦労もあったと思うが、続けられた秘訣は？

A：とりあえずやってみろとの声と何かあったら責任は俺がとつてやるとの声掛けが上司からあった。そんな上司が必要だし、そのような人がいた。やってみるとモチベーションを上げてくれる人（上司）が必要と思う。

( 連合市民クラブ

野崎 伸也

### 連合市民クラブ会派視察復命書

視察日時：平成26年7月23日（水）13：30～16：00

視察場所：京都府京丹後市役所

視察項目：「公共交通再生の取り組みについて」

「日本一の赤字鉄道再生プロジェクトについて」

八代市においても、バス事業者やおれんじ鉄道に対する補助金の増加がある。これまで一般質問など執行部と補助金の削減策について、利便性の向上と集客増などについて論議してきた経緯がある。バス路線については路線の再編や山間地域への乗り合いタクシーの導入などの施策を行ってきており、利用者からの苦言も多く聞かれる状況にあり、未だ道半ばと捉えている。そこで、全国的にも成功例として名高い京丹後市を訪れ、見聞を広めることとした。

視察担当頂いたのは、当初から施策に携わられた野木職員に説明いただき、質疑応答を行った。以下、八代市との違いについて気づいた点を箇条書きにしてみる。

- 行財政改革において市長より補助額の特出していいたバス事業者への補助金をどうにかしたい（どうにかしろ）との指示があった。 $\Rightarrow$  トップダウンで明確な目標の指示があつた。
- 庁内PJのリーダーは市長で、決定した取り組みに対する予算処置を確約してくれた。
- 単なる値下げでは集客増に繋がらない経験から、二の舞にならない様に知恵を絞った。
- 庁舎内で一旦はコミュニティバスへの移行を決定していたが、それを覆すような職員の熱意とアイデアがあった。また、JR福知山線の脱線事故から万が一の補償を考えた場合、乗客の安全を第一にとの思いから、安全・安心・確実なバス事業者を選択した。
- 税金（補助金）の投入が続くのであれば良い変化、利便性と満足度が向上し市民に理解して貰える施策にしたいとの思いがあった。
- 低額運賃バスの試算があり、今後補助金を増やさない、或いは同程度の支出ならやってみる価値があると判断した。
- 公費負担（補助金）を有効に「700円×2人でなく、7人×200円」の発想。
- 知恵を出し、お金を掛けなくても工夫して良くするとの思い。
- 講師やコンサルタントの排除 $\Rightarrow$ 自分たちが地域の事に詳しいとの自負。

野木職員からは、やり遂げたとの思いや自負、自信を感じさせられたり、これを契機として仕事に対する更なる向上心が伺えた。また、数うぢや当たるの精神や、新しい事を始める時の職場上司からの「やってみろ」「責任は俺が取る」との声掛けがある職場だったとの言葉が印象的だった。

八代市においても、職場環境の充実を図ることが大事と感じた。また、バス路線や鉄道の改革においては、役所はもとより、事業者、利用者、地域住民を巻き込んだ話し合いを数多く設定し進めていくべきと感じた。京丹後市が上手く行ったことに、特別な要素があるとは思えない。どこの自治体でも、勿論、八代市でも出来る取り組みばかりだった。今回の視察内容を八代市執行部と共有し、新たな施策に繋がるよう取り組んでいきたい。

## 会派合同 行政視察所見

議員名【大倉 裕一】

◆視察日：平成26年 7月23日（水）

◆視察先：京都府京丹後市

◆調査項目：公共交通再生の取り組みについて

日本一の赤字鉄道再生プロジェクトについて

京丹後市の公共交通再生の取り組みについて、日本一の赤字鉄道再生プロジェクトについて、導入の経緯、概要と特色、導入の効果と市民の評価、今後の課題について視察させていただいた。

中でも、赤字が右肩上がりの状況にある中、行政の立場ではなく、市民の立場に立って利用しやすい公共交通となること。

国の公共交通の整理、縮小、民間委託の方針がだされているにも関わらず、御市独自のスタンスを貫かれた点など、沢山のことを教わることができた。

本市においても、平成24年度にバス路線の再編を行い、山間地域には乗合タクシーを導入した。執行部の評価は赤字削減と自負しているようだが、市民からは利便性や合理性、経済面から不満の声も聞こえてくる状況がある。

議会からも様々な提案をしてきたが、執行部との公共交通に対する理解が進まず、ジレンマさえ抱えている。今回の視察を参考に、再度アクションを起こして行こうという気につながった。

◆視察日：平成26年 7月24日（木）

◆視察先：兵庫県豊岡市

◆調査項目：観光資源を活かしたまちづくりについて

豊岡市を視察させていただくために前泊で城崎温泉にしゅくはくさせていただいた。城崎温泉は、京都府の県議会議員が政務活動費を不正に使用して視察先として有名になった場所でもある。仲居さんの話では、このことが違った意味で波及効果が表れているとの話であった。

おもてなしも良く、丁寧で流石、城崎温泉、というものを肌で感じることができた。

観光資源を活かしたまちづくりを、取り組みの概要と特色、導入の効果と市民の評価、今後の課題について視察させていただいた。

様々な事業を展開されており、大変参考になるものとなった。

視察の内容を本市の観光事業に活かせるよう活動していきたいと思った。

◆視察日：平成26年 7月24日（木）

◆視察先：大阪府大阪市

◆調査項目：大阪市教育振興基本計画について

平成27年度から教育委員会制度が変更となる。そのような中、教育振興基本計画を策定された大阪市を視察した。

大阪市教育振興基本計画について、計画策定の経緯、概要及び特色、効果と市民の評価、今後の課題について視察させていただいた。

大阪市教育振興基本計画は、平成25年度から27年度までの3年間で集中的に取り組むべき教育施策を定めたものであり、これまで進めてきた施策に加え、5点の改革の方向性に沿って新たな施策の実施や制度の確立に向けて取り組むものであった。

5点の改革の内容としては、①カリキュラム改革、②グローバル化改革、③マネジメント改革、④ガバナンス改革、⑤学校サポート改革である。

改革の方向性として、上位下達の教育行政ではなく、校長が予算人事面で一定の権限を持ち、実際に学校をマネジメントできるようにすことや、市民に学校の情報を提供し、保護者や地域住民が学校運営に積極的に協力・参画できる環境を整備するものであった。

①では橋本市長が力をいれているICTの活用や習熟度別授業の実施、統廃合を捉えて小中一貫校の設置、通知表をパソコン化

②では、小学校一年生から大阪独自の英語教育に取り組み、英語重点指定校に19校、小学校卒業時に英語検定3級の語学力を目指すこと。

③では、校長の権限の強化と責任、自律的な学校運営を行う。希望FA制度の導入（24名／29名）がんばる先生支援制度（基本配分に加算50～100万円の支援）

④では12区学校選択制の導入

⑤いじめや問題行動（平成25年度実績30件程度）

先生たちの評価として、ICT化によって以前より25～30%子どもたちに向き合う時間ができたとの評価があることを知った。

習熟度別授業など心配する事業もあったが、概ね保護者の理解も得られる中、計画が実行されているようだ。計画の途中段階ということで、成果についてはこれから評価との考えであったが、様々な事業は本市の教育計画にも参考になるものがあると思う。今後の活動の中で、しっかり活かしたい。

八代市議会

改革クラブ・連合市民クラブ

管外行政調査報告 委員名 島田一巳

視察日：平成 26 年 7 月 23 日(水)

視察先：京都府京丹後市

調査項目：公共交通再生の取り組みについて

京丹後市にとってバスは広い市内を円滑に移動するための身近な交通手段の一つですが、路線バスの利用者が減少する中、事業者への維持・補助額が増加傾向にあった。同じ補助をするなら乗っていただけのバスに補助をしようという方針となり、コミュニティバスではなく路線バスの再生のため、市民に対し定額運行化に向け、運賃に関するアンケートを実施した結果、上限を 200 円とする料金設定の割合が多くの支持を得る結果となった。また全てのバス停の発着時刻が掲載されている時刻表を全戸に配布しています。

本市でも本格的な高齢化社会の到来に向け、公共交通の充実に参考にさせていただきます。

# 改革クラブ・連合市民クラブ会派合同視察報告書

## 豊岡市（城崎支所）

全体日程：平成 7月 23 日（水）～25 日（金）

視 察 先：京都府京丹後市：公共交通再生の取り組みについて

兵庫県豊岡市（城崎支所）：観光資源を生かしたまちづくりについて

大阪府大阪市：大阪市教育振興基本計画について

### 1、豊岡市の概要

項目	豊岡市	八代市
人口	85,592 人	132,266 人
面積	697.66 km <sup>2</sup>	680.60 km <sup>2</sup>
財政力指数	0.39	0.46
自主財源比率	30.9%	33.7%

・但馬地方の中心都市であり、北は日本海、東は京都府に接している。海岸部は山陰海岸国立公園、山岳部は氷ノ山後山那岐山国定公園に指定され、一体は山陰海岸ジオパークのエリアでもあり、自然に恵まれる。城崎温泉、神鍋高原スキー場などを有し、年間観光客は約 417 万人。かばんや出石焼などの地場産業も有名。国の天然記念物・コウノトリの人里での野生復帰を目指す取り組みが進行中。

・市の G D P を 10 年間で 2.3% 増加させる「不可能への挑戦」を掲げ、環境経済の実践に満ちた刺激的な「豊岡エコバレー」として築き上げるとともに、①行ってみたくなる魅力的なまちを創る、②そのようなまちが存在することを全国・世界に対して発信する、③その交流を支える交流基盤を整備する、も 3 つを柱に「大交流」の実現を図る。

### 2、視察の目的

観光振興は本市にとっても重要な施策である。特に日奈久温泉には、これまで多くの財源を投入しハード面の整備を進め、さまざまな取り組みを行ってきたがその成果が見えないという課題を抱えている。そこで、外国人を含む多くの観光客の集客に成功している城崎温泉の取り組みを研修することと、豊岡市全体の観光振興についてどのような考え方を持たれているのかを学ぶことを目的とした。

### 3、調査事項

#### （1）取り組みの概要及び特色

- ・担当は「豊岡市環境経済部大交流課」・「環境」・「観光」・「経済」を一体的に取り組む。
- ・豊岡、城崎、たけの、日高神鍋、但馬國出石、但東の 6 つの観光協会で構成される「豊岡ツーリズム協議会」が中心に取り組んでいる。
- ・その予算は平成 25 年度決算額で 8,774,789 円

- ・平成25年度の入込み客数4,316千人（前年比100.9%）内宿泊者数1,145千人（前年比101.4%）と増加している。
- ・地域ごと（観光協会ごと）の主な特色  
 「豊岡」・・コウノトリの郷。カバン  
 「竹野」・・竹野浜海水浴場、ジオカヌー、世界認定されたジオパーク、マツバガニ  
 「日高」・・神鍋スキー場  
 「出石」・・皿そば、但馬の小京都  
 「城崎」・・温泉地、ロープウェイ
- ・多種多様な観光資源があり、それを総合的にどのように連携させることで相乗効果を狙っている。
- ・城崎温泉のモットーは「共存共榮」。城崎温泉をひとつのホテルとして考えている。  
 駅を玄関、通りを廊下、旅館を客室、外湯を大浴場、おみやげ物屋を売店として捉え、決して大きなホテルが客を独り占めしないということで取り組んでいる。

### （2）取り組みの効果と市民の評価

- ・市民意識調査

「豊岡市は活気のある町と思うか？」

	とてもそう思う	思う	分からぬ	思わない	全く思わない
市全体	1%	14%	27%	49%	9%
城崎地域	6%	51%	30%	9%	4%

### （3）今後の課題

- ・観光施策を経験と勘に頼っていないか？を検証

1、 インバウンド対策・・・情報が欲しい人に届いているのか。どんな情報が欲しいのか。どこから来てほしいのか。受け入れ態勢は万全か。

2、 国内対策・・・地域ごとの強みとライバルは。環境客の望むものは。ターゲットは。戦略は正しいか。

などを、的確に把握して効果的な戦略を取る。

インターネットにどのような情報を乗せるのか。どのようなキーワード（言葉）で検索するのか、させるのか。

・26年度は海外戦略の推進としてWEBでの戦略を進めている。ツーリズム協議会にインバウンド部会を設置。DMO（ワンストップでできる相談窓口）を設置。CIR（外国語）のできる日本人）、海外戦略推進員を採用して、海外の感覚でホームページをチェックする。また、ブランド調査を実施。地域ごとの強みや弱みの把握、具体的なターゲットの設定、戦略の検討を行った。

#### ( 4、主な質疑応答

Q : 城崎駅に下りたら、駅前にバスが迎えにきていた。これは?

A : 旅館組合の職員が迎えにきている。それぞれの旅館がバスを出していたら町中が混雑する。話し合って、旅館組合で主体的に決められた。

Q : 部・課の名称は?

A : 市長の考え方である。

Q : 市長は観光に力を入れているのか

A : 観光というより、小さな未来都市を考えていて、知られないと選ばれないということで情報発信に力を入れている。

Q : 市の「大交流」に対する力の入れ方は?

A : 市が主になって何かをやることは少ない。合併当初のタイトルであり、このままでいいのかという課題、このような戦略など提案はするが、実施するのは観光協会。

Q : 城崎のキャッチフレーズ「共存・共栄」は?

A : 外湯があることが要因であろうと思う。長い歴史の中で共同浴場から端を発している。旅館には内湯が無く、宿泊するだけであった。その外湯を皆で守ってきた。

Q : 湯量は豊富なのか?

A : 集中配管システムで一元化している。

Q : 商店街の景観は?

A : 景観重点地区の指定をしている。色、高さ、屋根など一定の規制を設けて景観を守っている。豊岡市が景観条例を持っている。

Q : 外国人の観光客が多い理由は?

A : ロンリープラネットで紹介されてから増えた。誰が投稿されたかは分らない。東南アジア、香港、オーストラリア、ヨーロッパから多い。団体ではなく個人でみえる。

Q : ジオカヌーとは?

A : 世界認定されたジオパークがあるが、この保護のために鑑賞は海からカヌーで行う。平成25年は2420人の利用があり、好評である。1回5000円から6000円の料金である。

Q : 旅館の後継者は?

A : 旅館の数は現在80件ほど、以前は100件あった。城崎には民宿は無いが、他の地域の民宿は高齢化が進んで減少しており課題となっている。城崎は世代交代ができておらず、若旦那の会の活動も活発である。イベントに若い人が帰ってくるし、高校生も祭りのときは学校を休む。そのような若い世代が継続的にまちづくりに関わっていく。地域の結びつきがとても強い。

Q : 夜に花火が上がっていたがこの予算は?

A : 7月21日から8月24日までの平日に上げている。平成23年度から始まった。平成22年度から過疎債がソフト事業にも使えるようになったので、これを活用し

( ている。1560万円である。温泉組合も多少の負担はある。

Q : 今後の観光施策の財源確保についてどのような見通しを持たれているのか?

A : 厳しくなると思っている。32億が減少する。施設の管理運営、イベントの見直しなどを行っていく必要がある。

Q : 入湯税の収入は?

A : 年間1億1千万円位ほどある。一般財源には繰り入れず、目的税として使用している。

以上

★所見は各議員別紙で添付

連合市民クラブ

野崎 伸也

## 連合市民クラブ会派視察復命書

視察日時：平成26年7月24日（木）9：00～11：30

視察場所：京都府豊岡市 城崎支所大会議室

視察項目：「観光を生かしたまちづくりについて」

八代市は、歴史ある日奈久温泉街を有し、観光の拠点としてこれまで、ハード・ソフト面から事業を進めてきた。しかし残念ながら、観光客の減少、特に宿泊客の激減に歯止めがかからず、衰退の一途をたどっている。そこで、日本で、また世界が注目する温泉地である城崎を訪れ、その成功の取り組みを研修することとした。

まず、城崎温泉駅に降り立った瞬間、情緒ある温泉街の風景に、この一瞬で、ここは素晴らしい温泉地だろうとの思いが頭をよぎる。そう思わせる、雰囲気があった。駅前には元気の良い女性が、何処に宿泊するか？と問いかける。旅館名を告げると宿泊先までバスで送迎してくれるサービスだそうだ。これは、旅館組合で行っているとの事。バスから見える風景は古き中にもきれいに区画されたであろう旅館街があった。また川と桟橋のたもとを浴衣姿で散策する家族連れやカップルの姿が多く見受けられた。この時点で日奈久との差を思い知らされた。

研修だが、豊岡市環境経済部大交流課大交流推進係という一風、変わった名称に所属する職員から、また、支所長はじめ数名の職員にも説明を頂き、質疑を行った。大交流課とは大きな交わりの中で人口を増やしていくという事らしい。ほかにもコウノトリ共生部というのもあり、その下に農林水産業課があつたりといい面白いネーミングがあった。これは市長の発案だそうだ。

豊岡市では、1市5町の合併前からそれぞれに存在していた観光協会がある。各所には、それぞれの一押し、PRすべき施設や自然、名勝があり、それぞれに独立した目標を掲げ取り組んでいる。かといってバラバラにと言う事でなく、それぞれの観光につながる展開がなされていた。平成25年度、豊岡市全体の入込み客数は431万6千人。内宿泊客は114万5千人、前年比101.4%という素晴らしい状況と感じたが、職員からは満足気な言葉は無く、むしろ危機感募る言葉と今後の展望に賭ける意気込みが伝わった。職員がこれまでの取り組みに疑問を持って点検を行い次の施策につなげていることが、常に先を行く一手の施策、事業に繋がっているように感じた。また、大交流課では外部からの職員交流で「楽天」「日立」の民間企業からそれぞれ1名の職員を受け入れているという。このような先進的な取り組みは八代市にも大いに取り入れるべきと感じた。

城崎温泉街についてだが、1925年の北但大地震による建物の倒壊と大火事で、全てが焼野原となり新たに街づくりを行った結果、今日の情緒あふれる素晴らしい街並みが形成されたとの事。出来るのであれば、日奈久の街並みも抜本的な改革、改造が必要ではないかと思う。10年そこらの目先の事も大事だが、50年あるいは100年後の日奈久温泉を考えたグランドデザインを描くことが必要と感じた。また、今回の研修で心に響いた一番の言葉は「城崎温泉のモットー 共存共栄」。駅は玄関、通りは廊下、旅館は客室、外湯は大浴場、お土産物屋は売店と城崎温泉街全体でのおもてなしによって地域全体に人が循環し地域内でのお金も循環するこの考えに共感した。共存共栄を今後の日奈久活性化に活用していく。

八代市議会  
改革クラブ・連合市民クラブ  
管外行政調査報告 委員名 島田一巳

視察日：平成 26 年 7 月 24 日(木)

視察先：兵庫県豊岡市(城崎支所)

調査項目：観光資源を生かしたまちづくりについて

世界中から人々が集まり賑わい活気に溢れている豊岡市を実現するため、実行計画の策定、さまざまな媒体を活用した効果的な広告宣伝や情報発信、国内外からの誘客促進、メディア・旅行エージェント等へのアプローチ、地域の特色を生かした集客イベントへの支援を行われておりました。

城崎温泉は温泉発見から約 1300 年の歴史を誇り、古くから「但馬の湯」として知られ、関西屈指の温泉地として、発展を続けられました。近年は海外からのお客様にも「浴衣を着ながら、外湯をめぐる」というスタイルで、典型的な日本の温泉地として親しまれています。

本市でも日奈久温泉があり城崎温泉のモットー(共存共栄)を理解し、反映されるよう今後参考にさせていただきます。

八代市議会  
改革クラブ・連合市民クラブ  
管外行政調査報告 委員名 島田一巳

視察日：平成 26 年 7 月 24 日(木)

視察先：大阪府大阪市

調査項目：大阪市教育振興基本計画について

大阪市は、近畿地方および西日本の行政・経済・文化・交通の中心都市であり、市域を中心として、大阪都市圏および京阪神大都市圏が形成されている。大阪市の 2009 年度の市内総生産は約 19 兆円で、政令指定都市中最大であり 2 倍から 3 倍の人口を擁する北海道や千葉県、兵庫県など 1 つの道府県の県内総生産を上回る。京阪神大都市圏の圏内総生産は、国内では首都圏に次ぎ、世界的にも上位にある。また市内の従業者数、事業所数、上場企業本社数は共に東京 23 区に次いで国内 2 位である。夜間人口は横浜市に次いで全国 2 位の約 267 万人、人口密度は全国の市で 5 位（政令指定都市中で 1 位）、昼間人口は市外から多くの通勤通学者が流入するため東京 23 区に次ぐ約 369 万人となる。近年では都心回帰が顕著で、中心部三区を中心に増加傾向にある。

### 大阪市の教育改革

#### 基本的な目標

この計画では、教育行政基本条例の前文に基づき、「めざすべき目標像」と、その達成に向けて教育にたずさわるすべての人々が共有すべき「基本となる考え方」を次のように掲げます。

## めざすべき目標像

全ての子どもたちが学力を身に付けながら健やかに成長し、自立した個人として自己を確立し、他者とともに次代の社会を担うようになることをめざします。

そのために、社会が多様化し激しく変化する中で、国際化の進展や未曾有の災害の発生等を踏まえ、子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力を備えるようにします。

## 基本となる考え方

・一人一人の子どもを、個人としての尊厳を重んじ、その意見を尊重するとともに、自由と規範意識、権利

と義務を重んじ、自己の判断と責任で道を切り拓き、真理と正義を求め、公共の精神を尊び、豊かな人間

性と創造性を備え、グローバル化が進む国際社会において力強く生き抜くことができる人間としてはぐくむこと

・子どもたちが、我が国と郷土の伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた国と、自らが育ったこの大

阪を愛し、大阪にふさわしい新しい文化の創造をめざすようになること

・教育行政においては、上記の教育が行われるよう、学校教育の円滑かつ継続的な実施のための支援、教員

の能力・適性等の向上を図るための研修、家庭の教育力の向上の支援、青少年・成人に対する教育活動の

振興に関する施策の推進に努めること

## 改革の方向性

この計画は、教育行政基本条例と学校活性化条例の趣旨に則り、大阪市の教育改革を計画的に推進するためのも

のです。改革を進めて基本的な目標を達成できるよう、改革の方向性を次の5点に整理し、その方向性に沿って、新

たな施策の実施や制度の確立に向けて取り組んでいきます。

また、教育委員会は、本市の教育行政や学校運営、その両者の関係のあり方について、組織体制、職員の職務・人

事を含め、現行制度の下で課題を検証し、その改革・改善を図っていきます。

### カリキュラム改革

3つの目標（ええとこのばそ、たすけあおう、わかりあおう）を見据え、いかに社会が変化しようと必要と

される学力、道徳心・社会性、健康・体力をはぐくみます。

- ・ 幼児期から義務教育修了までに、基本的な道徳心・規範意識を培います
- ・ 新たな幼児教育カリキュラムを編成・実施します
- ・ I C Tを活用して協働学習や個別学習などの充実をめざす「大阪市スタンダードモデル」を策定します
- ・ カリキュラムのイノベーションにつながる研究を進めます
- ・ 通知表改革:学びの評価を客観的なものにします
- ・ 健全な食生活の確立に向けて食育を進めます

### グローバル化改革

国際共通語である英語を使えることをめざす教育の充実や、世界最先端のI C T学習環境の活用により、

グローバル人材としての基礎を育てます。

- ・「英語イノベーション」：小学校1年生から大阪独自の英語教育に取り組みます
- ・ICTを活用して協働学習や個別学習などの充実をめざす「大阪市スタンダードモデル」を策定します

### マネジメント改革

校園長がその権限と責任により自律的な学校運営を行い、子どもや保護者の意向に応え、学校や地域の実情

に応じた特色ある教育実践を創造し、学校園の活性化を図ります。

- ・校長がリーダーシップを發揮して活気のある学校づくりを進めます
- ・管理職を中心とした学校の組織マネジメント体制の改革を進めます
- ・教員人事制度等を見直します
- ・教員が互いに切磋琢磨し、優れた教育実践を創る仕組みをつくります

### ガバナンス改革

保護者・地域住民をはじめとする市民に説明責任を果たすとともに、市民の参加を得られるよう、情報の積

極的な提供、学校協議会の設置など開かれた学校運営を行います。

- ・保護者・地域住民に開かれた学校をつくります
- ・民間や広域行政との適正な役割分担を進めます

### 学校サポート改革

専門家の支援や業務の効率化などにより、教職員がその持てる能力を教育実践で十分に発揮できるよう支援

します。

- ・いじめ・問題行動に毅然とした対応をとるための制度をつくります
- ・体罰・暴力行為を生まない学校づくりや、運動部活動の適切な指導方法の確立を図ります
- ・学校運営における課題の解決を支援します
- ・学校教育以外でも多様な学習機会を利用できるよう支援します

### 計画の推進

この計画に基づき施策を総合的に推進するために、社会総がかりで教育活動に取り組むことを掲げています。

また、施策を計画的に推進するために、各年度における目標や具体的取組を定め、その進捗状況を点検評価し、施策を改善していくことなどを定めています。

### 今後3年間で取り組む施策

今後進めていく施策の全体像について、子ども、学校園、市民のそれぞれに対する3つの分野に分け、施策ごとに平成

27年度までの目標を設定し、代表的な取組の概要と計画を記載しています。

#### 1 子どもの自立に必要な力の育成（カリキュラム改革、グローバル化改革関連）

幼児期から義務教育修了までの教育を充実させることにより、一人ひとりの子どもにとって将来の自立に必要な力を

を育てるとともに、国際社会において力強く生き抜くことができる人材となる基礎をはぐくみます。

##### 1 学力の向上

2 道徳心・社会性の育成

3 健康・体力の保持増進

4 幼児教育の充実

5 特別支援教育の充実

## 2 学校教育の質の向上（マネジメント改革関連）

校園長がリーダーシップを発揮し、教員が切磋琢磨することにより、優れた教育実践を創造するための仕組みづくりを進めます。併せて、教職員がその持てる能力を教育実践で十分に発揮できるようにするための環境を整備します。

1 学校の活性化

2 教職員の資質・能力の向上

## 3 市民が協働する仕組みづくりと生涯学習の支援（ガバナンス改革、学校サポート改革関連）

学校園が積極的に情報を発信し、保護者や地域住民が参加する開かれた学校運営を進めるとともに、学校における

教育活動のサポートが一層充実するよう取り組みます。また、市民が地域社会の担い手として協働していくよう、市

民の生涯にわたる学習を支援し、その成果を地域における活動に生かすことができるようになります。

1 学校・家庭・地域の連携の推進

2 生涯学習の推進

本市でも大阪市の教育振興基本計画を精査し、本市の教育に活かせるよう今後参考にさせていただきます。

連合市民クラブ

野崎 伸也

## 連合市民クラブ会派視察復命書

視察日時：平成26年7月24日（木）15：00～16：30

視察場所：大阪市

視察項目：「大阪市教育振興基本計画について」

平成18年に約60年ぶりに教育基本法が改正され、各自治体は国の計画を参考に、それぞれの地域に応じた教育施策に関する基本計画である「教育振興基本計画」を定めるよう努めることとされた。よって全国の自治体では、特色ある計画が定められると共にそれぞれの施策を展開している状況にある。

八代市教育委員会も平成25年3月に新たに「八代市教育振興基本計画」を策定、5つの基本目標、16の基本方針、48の施策を掲げ銳意取り組みを進めている。今回は、大胆な改革や施策で注目されている大阪市の教育基本計画に興味を持っていたこと。勿論、八代市との相違、見習うべき点が多いものと期待し研修に臨んだ。

まず、マネジメント改革では、校長の権限と責任の強化がある。全国一斉学力テストの結果から重点的に取り組む課題を抽出し、どのように取り組みどのレベルまでなど具体的な指標を示す。これに必要な予算（校長経営戦略予算）は校長が教育委員会にプレゼンし要求する。また、管理職、校長はじめ副校长の公募制。教職員同士の切磋琢磨、やる気を引き出すとしてのF.A制度など。

次にカリキュラム改革では、橋本大阪市長肝いりの、タブレットPC・電子黒板・デジタル教科書などを活用した最先端の学習環境整備や、中学校の弁当箱によるデリバリー給食の確立がある。特に注目すべきは、「習熟度別授業」で理解力の差に応じた少人数授業を実施している。

グローバル改革では、小学校1年生からの英語教育で、小学6年終了までに英検5級～3級程度。中学3年終了までに英検2級・準1級程度の英語力を育成すると、具体的な数値目標が掲げられている。

ガバナンス改革では、保護者・地域に開かれた学校を目指し、保護者・地域住民を中心とした「学校協議会」を設置。学力・体力・いじめ等の問題行動について広く公表し、情報を共有化しながら学校運営を行うこととしている。

根本的な話になるが、教育基本計画の策定においても大阪市独自の特色があった。策定にあたっては、「市長は教育委員会と協議して策定すること」策定した計画は「議会の議決を経て定めること」。策定した計画の進捗を毎年、点検評価しその報告書を議会に提出し公表するなどを、条例で定めている。

以上、八代市との比較し優れている、或いは見習うべき点として感じたことを列挙した。懸念があるとすれば、これほどに「市長が議会が教育に関し政治介入することが望ましいか」「マネジメントによる数値目標の作成、実施点検による精神的負担」などなどの批判ではないか。しかし、市長あるいは、公募による校長などの暴走に歯止めを掛けるのが、各学校に設置された「学校協議会」と思われる。保護者・地域住民・学識経験者への情報の共有化。開かれた学校づくりとして参画できることは素晴らしい事であるし、それぞれの立場での責任を負わせていることが重要と感じた。

最後に、大阪市では、多くの施策を掲げ取り組んでいるが、3年という期間でスピード感を持ち、成果を見い出そう、そして次に繋げようという気概、本気で子どもの教育をやろうとの意気込みを感じられた。まずは、このスピード感、意気込みを八代市は見習うべきである。

平成26年12月5日

連合市民クラブ

代表 野崎伸也 様

八代市議会連合市民クラブ地方議員研究会セミナー受講復命書

\* 受講期日 平成26年11月20日（木）～21日（金）

\* 受講場所 東京都 地方議員の広報活動

参加者 野崎 伸也



大倉 裕一



島田 一巳



## 連合市民クラブ視察復命書

日時：平成26年11月20日（木） 13:00～

場所：東京都

### 研修項目

- 「2015年統一地方議会選挙向け 政治家広報セミナー」

講師：田村 亮（選挙用品ドットコム代表）

【プロフィール】

- 海上自衛隊幹部候補生学校卒

- 「選挙を変え、政治家を変え、政治を変える」を信条とする。

- 全国5000件以上の選挙をサポート

- 木村拓哉主演TVドラマ「CHANGE」の用品監修など実績を持つ。

### （1）研修内容

別紙 パワーポイントの資料「2015年統一地方議会選挙向け 政治家広報セミナー」  
を参照下さい。

### 所 感

地方議員の広報活動～情報発信のあり方～との研修項目に飛びついた。それは、当会派では議会だよりを作成しており、情報の発信の仕方としてどうであるか、他の情報発信にどのようなものがあり、他市の議員がどのような情報を発信しているか、そこを調査すべく視察内容として選択したものである。

ところが、研修会場に着き驚くべきものが飛び込んできた。それは「2015年統一地方選挙向け、政治家広報セミナー」とのパワーポイントで映し出された文字であった。

視察に参加した当会派のメンバーはお互い顔を見合わせ、こんな研修だったのかとの思いにたつた。

先ずは、視察の内容をしっかりと精査せず、市民の貴重な税金からなる政務活動費を使わせていただき、上京したことにお詫びを申し上げなければならない。今後は視察内容をしっかりと事前に確認し、精査した上で選択していきたい。

統一地方選向けとはいえ、日頃の活動や広報活動に直接参考になるものがあった。例えば、日々の議員活動を効果的に住民に伝えるには、相手に合わせる。自我を出さず相手目線であること。伝え方として順番や構成、表現の仕方、誰に伝えるのかというターゲットの絞込みが必要であること。

また、広報誌の作り方として、男性は写真派、女性は文字派であること。①写真を増やす ②グラフや表を活用する（問題点、課題を明確に！） ③似顔絵やイラストもOK ④紙面は「読む」より「見える」を意識する ことは今後の活動や広報誌を作成する上で非常に参考になった。

情報の発信による市民との情報の共有は必要不可欠であり、信頼を構築するものでも

あると考える。今回の視察研修を活動に反映させ、情報のきょうゆうかに取り組んでいきたい。

## 「公職選挙制度と議員広報 in 東京」受講所見

議員名【野崎 伸也】

◆受講日：平成26年11月20日（木） 13:30～16:30

◆研修先：東京都

◆研修内容：地方議員の広報活動～情報発信のあり方～

私が所属する連合市民クラブ会派では、各定例会の終了後に「議会だより」と題し議会報告を発行し、市民へ届けている。これまで、タブロイド判からA4見開きへ。また、紙面の内容や表現も見やすく読まれやすいようにと少しづつだが変更を重ねてきた。

また、3会派合同で行っている「議会報告会」においては、各定例会の終了後に、ハーモニーホールと校区2会場を選択し報告会を行っている。その案内チラシや報告用パワーポイント、当日配布資料なども作成している。見やすく分かりやすく目に留まりやすくを心掛けて作成している。

上記、共により一層の広報活動を目指し、また当会派には新人議員もいることから今回の研修を受講することにした。

講師は、田村亮氏。選挙用品ドットコム代表。これまで全国5,000件以上の選挙をサポート。現役政治家のみならず、米国大統領選で大使館に用品の提供支援や、木村拓哉（スマップ）主演TVドラマ「CHANGE」（政治家ドラマ）の用品監修など多数のメディアで専門家として取材されている。

セミナー前半は、衆院選挙前ということから、選挙ポスター用の写真の撮り方や投票率向上のための広報活動、伝え方の基本等が話された。こちらは次回の選挙に活用できる？と思われる。

後半に広報誌の作り方が紹介された。

- ・配布方法は非効率と思えても駅でのビラ配りは有効。（八代では…）
- ・広報紙を受け取るメリットがありそうだと期待感を持たせる紙面作り。
- ・発行の頻度を高める（最低でも会派では4回、個人では2回）
- ・広報紙のテーマは1枚に1～2個
- ・広報紙のフォントは見出しゴシック、文章明朝に。（年配者はゴシックが読みにくい）
- ・文字の大きさは12ポイント以上で作成すること。

以上を心に留めながら作成すれば良いとの事だった。実際に12月議会・3月議会で作成してみたが、読まれた方に、読みやすくなったとの評価を頂いている。今後も、読まれた方に忌憚のない意見を頂きながら、また、今回のセミナーを活かしてより良い、そして効果的な広報活動につなげていきたい。

余談だが、セミナー終了後、せっかく東京に來たので、八代市の農産物PR事業で出展販売している「採れたて村」へ足を延ばした。アーケードの中にある店舗では、日本全国から選ばれた地域の食材が販売されており、八代産の物品は従業員の方からも特に好評で、リピート客も多いとの事。さらに多くの売り上げに繋がる様に努力して貰いたいと思う。さらに、夕食を東京神田の「やつしろ食堂」にて頂いた。こちらも市の事業との関連がある。店主と八代産について話を交わし、今後も引き続きの八代市PRを約束して貰った。

会派行政視察所見 委員名 島田一巳

視察日：平成 26 年 1 月 20 日(木)

視察先：東京都中央区京橋 1-11-2 八重洲MD I ビル

調査項目:地方議員研修会「公職選挙制度と議員広報 in 東京  
(地方議員の広報活動～情報発信のあり方～)」

読んでもらえる広報誌とは「読む気にさせる」デザインが必要とのこと、写真の使い方や色使い、文字の大きさや図表の使い方、独自のノウハウを用いて作成する。見た目が綺麗な紙面が出来れば良いのではなく、読まれた方が十分に満足出来る企画や文章内容にする。読みやすい紙面作り、作る人の思いが読み手に伝わる、読んで頂く相手の立場を考え年配の方々が読みやすいように文字を大きくしたりする。

魅力がないということは、読まれないということです。手に取った印刷物を見て、興味を持たなければ読みだされません。読まれてこそ意味があるので、そのためには、読者がつい読んでしまう広報誌作りが大切ではないかと思い、今後参考にさせていただきたい。

平成27年3月31日

連合市民クラブ

代表 野崎伸也 様

八代市議会連合市民クラブ行政視察復命書

\* 観察期日 平成27年3月24日（火）～26日（木）

\* 観察場所 京都市 小水力発電について  
【嵐山保勝会】

龜岡市 水耕栽培について  
【（株）スプレッド】

京都市 地方創生・地域資源活用提案事業について  
【（株）地域歴史活性化研究所】

参加者 大倉 裕一



島田 一巳



## 連合市民クラブ・改革クラブ会派合同視察復命

( 日時：平成27年 3月25日（水） 10:00~11:40

場所：嵐山保勝会

京都府京都市右京区嵯峨天竜寺芒ノ馬場町40

### 調査項目

○ 小水力発電について

#### 1. 事業実施の経緯

○ 嵐山保勝会について

昭和7年に国（文化庁）が史跡名所に指定を受ける。

指定を景気に、景勝地を保つことを主旨として地元中心で山・川を守る任意団体が結成。現在に至る。

○ 渡月橋154m木造の橋に100mを超える常設灯が設置されている。しかし、夕方5時には真っ暗になる。照明の必要性を感じる。

○ そこで40灯、臨時にあんどんを設置。2010年から3年間行い、非常に好評を得る。

○ 保勝会で照明を寄附しようという提案がなされる。

○ 2013年京都議定書の時期とも重なり、2014年の保勝会総会で寄附することが正式に決定。

○ 電力会社から電気を購入して設置するだけでは効果が薄い。川が近くにあることから水の力で発電した電気を使用できないかとアイデアが出される。

#### 2. 取組みの概要及び特色

○ 水力発電設備 総工費3400万円 寄付金が軍資金である。

○ 渡月橋の下は以前、貯木場であったため、川に堰が設けてある。この堰を活用した形で発電設備を設置。

○ 総工費はNEDOの補助金を活用（3割補助）市は150万円（主にパンフレット代）

○ 電力会社との電力の売買契約単価 当初21円／wh⇒再エネ43円／wh

○ 水車はチエコ製である。最大5.5kW、通常4kWの出力が得られる。

○ 照明は地元企業と開発し、LEDを採用（負荷は1kW）。残りは売電。

○ 稼働日は年間300日程度

#### 3. 取組みの効果

○ 夜間歩行通行時の安全安心の確保

○ ライトアップによるイメージアップと観光客の誘客

○ 堰が土地改良の管理下であり、除塵機にかかったごみを嵐山保勝会の代表がかきあげている。

#### 4. 今後の課題

○ 特別大きな課題はない。設備を更新する時の財源や小水力発電機器の技術がレベルアップしていくこと。

## 5. 質疑応答（抜粋）

質問：嵐山保勝会の会員と会費は？

答え：会員は100名程度（？）会費は月に500円

質問：水利権の申請はスムースに行ったのか？

答え：国交省の水利権許認可はスムースに行ったと思っている。説明でも話したように、堰が土地改良区の管理下にあり、土地改良の水が減るのではないかとの意見があり、理解を得るために説明が少し大変だった。

質問：維持管理費用は？

答え：年間20万円程度。オーバーホールの必要もないと言っている。

## 6. 所感

任意団体が、発電事業に取り組んでいることを視察させていただいた。橋に照明を設置することから発展的に検討され、電源の確保まで取り組まれていた。非常に環境意識の高さを感じるものであった。

本市においては、荒瀬ダムが撤去され、県営藤本発電所が廃止となっているが、この廃止には、県企業局が地元住民の声であるダム放水時の振動や騒音、臭気に真摯に対応してこなかつたことや、清流を取り戻したいとの考え方からで、水力発電に反対しているものではない。

水力発電は、有効な自然エネルギー発電のひとつであり、本市においても、遙拝堰や用水路の水の力を活用した発電は可能であると考える。要は、やろうという意識があるかないかであると考える。

今後の行政のスタンスに注視しながら、議員活動の中で民間や様々な団体が関心を持たれていれば情報を提供し、共有化に取り組んでいきたいと思った。

会派合同管外行政視察所見 委員名 島田一巳

視察日：平成27年3月25日(水)

視察先：京都府京都市

調査項目：小水力発電について

嵐山にある事務所で担当理事より設置経緯と現状及び課題について説明と意見交換をさせて頂きました。嵐山保勝会は地域資源である嵐山の観光景勝地の維持、観光地としての魅力向上、清掃活動等行っている任意団体です。

自然にやさしいエネルギー、繰り返し使える（再生可能）エネルギー、環境保全の観点からも重要なことだと思います。

小水力発電は、資源の少ない日本の貴重なエネルギー源です。国内の豊かな水資源を利用する小水力発電は、純国産エネルギーとして、期待されます。桂川（一級河川）の流れを利用した小水力発電による自然エネルギーを、渡月橋を生活道路として渡る人々の足元を照らすだけでなく、地球温暖化防止にもつながると思います。一級河川の河川区域内に、回転機を使用する小水力発電設備を設置する国内初のケースです。本市にも、球磨川（一級河川）があり遙拝堰等、水資源を利用した小水力発電の参考にさせていただきます。

## 連合市民クラブ・改革クラブ会派合同視察復命

日時：平成27年 3月25日（水） 14:00～16:00

場所：株式会社スプレッド

京都府亀岡市余部町蚊又54 亀岡プラント

### 調査項目

○ 水耕栽培について

#### 1. 事業実施の経緯

○スプレッドは、トレードグループの傘下である。

○トレードグループは、青果業界をリードする企業グループであり、その総合力が特徴である。

○生産から、流通、物流、販売まで、サプライチェーンの変革を実現し、青果業界における効率的なビジネスモデルを提案している。

○トレードグループの事業領域は、農業ビジネス、流通ビジネス、物流ビジネス、販売プロモーションの4つに分かれている。スプレッドはこのうち「農業ビジネス」を担っている。

#### 2. 取組みの概要及び特色

##### 植物工場概要

栽培方法：蛍光灯による多段式水耕栽培方式

制御機能：照明、温度、湿度、溶液、CO<sub>2</sub>

生産能力：日量21000株、年間770万株

##### 栽培面積

(1期工事) : 900m<sup>2</sup> × 12段 = 10800m<sup>2</sup>

(2期工事) : 900m<sup>2</sup> × 16段 = 14400m<sup>2</sup>

##### 栽培ライン

(1期工事) : 900m<sup>2</sup> × 12段

(2期工事) : 900m<sup>2</sup> × 16段

環境対策：地下水を利用して循環型の湛液式、溶液栽培方式を採用

敷地面積：4780.34m<sup>2</sup>

建築面積：2868.22m<sup>2</sup>

建物高さ：15.94m

### 「スプレッドが追求する3つのテーマ」

○農業イノベーション

一般的に露地で栽培される野菜は天候に左右され、品質や生産量を一定に保つことが困難といわれている。スプレッドはこれらの課題を解決するため、最先端の技術（環境制御技術、栽培技術等）を用いて、太陽光と土に頼らない新たなイノベーションを起こすことを目指す。

○持続可能社会の実現

スプレッドの植物工場で栽培された野菜は農薬を一切使用せず、安心して食べていただける。また、栽培に必要となる水を循環させることで最小限に止めるとともに、電力については、エネルギーも省スペースで効率的な利用を通じて、消費を最小限に抑えている。

スプレッドは、環境にやさしい植物工場の運営を通じて、人々が安全、安心に暮らせる持続可能社会の実現を目指す。

#### ○食料インフラの構築

現在の世界は、地球温暖化による気候変動や環境破壊などで土壤の劣化が進んでいる。また、日本においても農業従事者の後継者不足などの問題を抱えている。スプレッドの植物工場は太陽光や土に依存しない完全人工光型の植物工場で、一年を通じて安定的な生産が可能である。スプレッドは、いつでも、どこでも、だれでも、食べられる工場野菜の生産を通じて食料インフラの構築を目指す。

#### 主力ブランド「ベジタス」の特徴

- 美味しい、きれい、元気、ビタミンレタス
- 大規模野菜工場の運営を支えるスプレッドの技術力
- 厳しい衛生管理基準をクリアした高品質な野菜をお客さまへ

### 3. 取組みの効果

- 食 料：安定生産と高品質を生み出す効率的な農業生産システム
- 水資源：水資源循環サイクルへの取組み、バーチャルウォーター問題への取組み
- 環 境：土壤排水や農薬散布の禁止、再生エネルギー、フードマイレージ
- 健 康：農薬不使用、低細菌、肥満防止、豊富なミネラル、医療費削減
- 教 育：食育や人材教育、社会問題、健康管理、研究開発
- 経 済：地域経済の活性化、新産業創出、雇用増大
- 産 業：異業種産業の連携（農業、工業、サービス業）、技術開発

### 4. 今後の課題

- 植物工場を取り巻く環境
  - 人工光植物工場数（国内）165 ⇒ 事業者は増加傾向
  - 一方、維持化できている社はごく少数（小規模で販路が限定された事業所が多数）
- 最終的には、消費者ニーズにあわせた商品提供
- 国内だけではなく、海外でも安定的な需要が見込まれ、消費者ニーズに合致した商品提供ができれば成長の余地は大きい。
- 大規模でありながら安定的に。

### 5. 質疑応答（抜粋）

質問：水耕栽培についてどの程度進んでいると考えれば良いか？

答え：水耕栽培は今からの技術と考えている。

質問：レタスが水耕栽培に適しているのか？

答え：様々な野菜で検証を行った結果、フリルレタスに取り組んでいる。

質問：ブランドである「ベジタス」はいくらで販売されているのか？

答え：販売店の自由である。スプレッドからは200円／前後。価格が安定しているのが特徴。

## 6. 所感

水耕栽培が国内で行われていること知っていたが、テレビを通じてのことで、実際に工場に赴き、栽培現場を見たのは始めてであった。工場では、見学用の窓（畳二畳分）から見るのみであったが、ガラスの先には、水耕栽培中のレタスが元気よく生長する姿があった。

今回の視察では得るものも多く、以下にその内容を述べたい。

まず、所得と商品価格について。

農業従事者の方と話をすると、安定収入が一番だと唱えられる方が私の周りでは多い。農作物は通常市場に出荷し、競によって商品の価格が決定される仕組みとなっている。これでは、人件費や肥料代、農薬代等、生産に必要とした経費分が取り戻せるかわからないのが現在のシステムである。今回の水耕栽培は、生産者が商品の価格を決定することができる。もちろん、必要経費を盛り込んで価格を決定することができる。

次に、商品の安全性である。

工場内で、しかも培養液による生産のため、害虫がつかず、病気になることもないため、完全に農薬を使っていないということである。露地野菜では農薬を使わないきれいな野菜が収穫できず、残留農薬は健康に影響がないといわれても、いざ口にするとなると農薬を使っていない野菜を食べたいと思う。

実際に工場でレタスを食べさせていただいたが、味もよく、新鮮できれいなレタスであった。

次に、労働環境と雇用である。

工場内は温度、湿度を管理されており、労働環境としては申し分ない環境で作業ができるということである。また、雇用の創出にも繋がることとなる。

また、八代市は露地野菜の特産地でもあり、農業に対する補助制度と補助金は自慢できるほどの内容であると感じている。高耐久ハウスで補助事業を行うことも産地を守る取組みに繋がるのかも知れないが、一方で、今後の後継者不足や、産地を守るという気持ち、更には熊本県や八代市の財政を考えると、農業における生産、流通、物流、販売を考える時にあるのではないかと思う視察となった。

会派合同管外行政視察所見 委員名 島田一巳

視察日：平成27年3月25日(水)

視察先：京都府亀岡市㈱スプレッド（亀岡プラント）

調査項目：水耕栽培について

レタスの水耕栽培、どんな野菜工場だろうと思い見させていただきました。第一印象がきれいな清潔な工場でした。建設資金が16億円とのことで高額な設備費用が発生しています。完全制御型野菜工場は設備費用やエネルギー費用が高額になるため採算性が大きな課題として挙げられています。この課題について、長年取り組んでこられた栽培技術と野菜流通グループネットワークを活用され、この課題をクリアされています。スプレッドの野菜工場は、人口光完全制御型野菜工場としてレタスを年間約770万株、日量21,000株生産されています。研究開発や衛生管理など専門的な技術も自社で構築されており意識の高さを感じました。また雇用についても、工場だけで約200名（交代制のパート従業員を含める）の地元雇用に貢献されています。本市もレタス栽培が盛んです、本市農業の発展のため参考にさせていただきます。

## 連合市民クラブ・改革クラブ会派合同視察復命

( 日時：平成27年 3月26日（木） 9：30～11：40

場所：株式会社 地域歴史活性化研究所

京都府京田辺市田辺深田17-1

### 調査項目

○ 地方創生・地域資源活用提案事業について

講師：関本徹生（京都造形芸術大学教授）

講師：鈴木智博（地域歴史活性化研究所）

1. 事業実施の経緯

2. 取組みの概要及び特色

3. 取組みの効果

4. 今後の課題

以上の調査項目に基づき作成された、パワーポイント「地方創生・地域資源活用提案事業」の資料を添付しています。参考下さい。

5. 所感

関本教授と視察先周辺を歩いて説明していただいた。

陶器を焼く釜を再現したり、大学生を巻き込んで、地域の祭りを再現したりされていることの説明を丁寧に行っていただいた。

関本教授は、仕事柄もあり、大学生（若者）を巻き込んだ歴史や文化の復活や、そのためには、地域の人に顔と名前を覚えていただくことからが始まりと持論を展開されたが、確かに地域の皆さんに受け入れていただくためには、必要である。

地方を活性化したり、まちづくりを行うためには、人を造らなければならないと思えたし、その人を引き倒すのではなく、ともに協力し、汗をかき、議論することの必要性を学ぶ視察であった。

会派合同管外行政視察所見、委員名、島田一巳

視察日：平成 27 年 3 月 26 日（木）

視察先：（株）地域歴史活性化研究所

調査項目：地方創生・地域資源活用提案事業について

東山区は、人口約 3 万 9 0 0 0 人で神社仏閣が多く陶器等で  
にぎやかな街で繁栄していました。近年職人さん等高齢化が  
進み東山区は空き家が多くあるとのことでした。その空き家  
を借り学生さんがアトリエ等活用され地域の中に、入ってい  
くことで街に活気を取り戻し、地域資源を活かした観光振興、  
協働による地域活性化をされていました。

本市にも、文化財や地域資源が多くあります、妙見祭や八代  
城跡群遺跡が国の無形文化財に登録されています。

地域資源を活かした地域ブランドつくり、地域資源活用の取  
り組みは地域産業、六次産業また地域資源には自然や歴史文  
化、温泉等の観光資源、食や特産品、生活文化、本市のさま  
ざまな特色を活かし、磨き方、その魅せ方についてヒントを  
得たように感じました。今後参考にさせていただきたいと思  
います。

## 平成26年度「会派合同議会報告会」のまとめ

平成22年4月から取り組みを開始した「会派合同議会報告会」も平成26年度で丸5年となった。26年度はこれまでの開催場所を洗い出し、開催期間が開いた校区での開催と、これまで太田郷校区にまとめていた宮地、龍峯校区での開催、さらに初めての試みとして本町アーケード内での開催に取り組んだ。市民により身近な場所で開催することは、参加の機会を確保するという観点からも必要なことであると考える。今後も、細やかな開催場所の設定を考えたい。また、議会報告会で出された意見、要望については、積極的にメンバーによる学習会の開催や調査を行うとともに、一般質問で取り上げるなど議会活動に反映させてきた。以下、今年度の取り組みをまとめる。

### 1、参加会派・議員名

- ・改革クラブ：亀田英雄 矢本善彦 幸村香代子 堀徹男 中山諭扶哉
- ・連合市民クラブ：野崎伸也 大倉裕一 島田一巳
- ・日本共産党：笹本サエ子

### 2、開催日時・会場・参加人数

開催日	会 場	開始時間	参加人数
①4月7日(月)	やつしろハーモニーホール	13時30分	8
		19時	9
②4月15日(火)	鏡文化センター	13時30分	5
③4月17日(木)	千丁公民館	13時30分	11
④7月8日(火)	やつしろハーモニーホール	13時30分	18
		19時	13
⑤7月10日(木)	八代公民館	台風の為中止	—
⑥7月11日(金)	八福笑店街	14時	3
⑦10月15日(水)	八代公民館	19時	10
⑧10月20日(月)	やつしろハーモニーホール	14時	10
		19時	32
⑨1月26日(月)	やつしろハーモニーホール	13時30分	合わせて
		19時	32
⑩2月2日(月)	宮地公民館	19時	9
⑪2月9日(月)	龍峯公民館	19時	8

\*やつしろハーモニーホールでの開催時（昼の部13時30分）には、毎回、手話通訳をお願いしている。

\*八福笑店街は、開催時間の設定に問題があった。参加された方から指摘を受けて反省。対象地域が狭くなれば、丁寧なリサーチをして、参加しやすい月日や時間の設定を考える必要がある。

### 3、開催までの準備

#### ①定例議会開会日に会議

開催日・開催場所の決定



#### ②定例議会閉会日に会議

役割分担の決定、報告のポイント、スケジュールの確認

↓・報告の資料作り（4常任委員会と全体概要）

↓・チラシづくり・印刷・チラシまき

ハーモニーホール 2000枚

各会場ごと 2000枚

#### ③リハーサル1回目

全員で点検し内容の確認・修正



#### ④リハーサル2回目

資料の最終確認

当日の最終確認

↓・当日配布資料・アンケートの準備

#### ⑤議会報告会

↓・会場設営

・当日の運営

・後片付け

↓・アンケートのまとめ

↓・当日の報告書の作成（質疑応答含む）

#### ⑥報告会終了後日に会議

報告会の反省会

・報告会で出された内容を精査し、学習会の開催や一般質問で取り上げるかなどを検討し、担当を決める。

\*一連の流れはこのように進む。各個人の活動もある中で、「議会報告会」の必要性が強く共有化されていることが、この取り組みが継続できている大きな要因である。

#### 4、今後に向けて

今年度の課題を整理しながら、引き続き「会派合同議会報告会」に取り組んでいく。ここ数年、議会や議員の存在意義が問われているが、議会報告会で市民と直接向き合って意見の交換を行うことは、相互の理解を深める大切な機会であると考えている。

毎回どんな質問があり、意見をいただくか緊張するが、だからこそ、日頃の自己研鑽が必要となっている。9人が切磋琢磨しながら今後も市民の負託に応えられるよう努力を重ねていきたい。

また、報告会の開催を楽しみにして固定した参加者が出来てきたことはうれしいことではあるが、全体として少ないことは残念なことであり、参加者が増えるようなやり方の検討も必要であると考えている。

テーマを設定しての意見交換会、条例提案なども取り組みたいものであり、議会報告会から更にレベルアップするような取り組みも検討したい。

参加者から、議会全体での議会報告会を期待する声が届けられるが、その必要性の共通認識が図っていない八代市議会の現状では残念ながら難しく、これまで幾度となく私たちから呼びかけてきたことでもあり、これから先は議長の見識によるものと考えている。